



KANAIWA ONO  
ART PROJECT

# 金石スタジオ 通信

7

金沢21世紀美術館が進めている金石大野芸術計画(Kanaiwa Ono Art Project)の活動の拠点となっている金石スタジオ(金石松前町1番16号)から、毎月みなさまに、最新情報をお届けするニュースレターです。

## おしらせ

### 2022年度の計画

昨年度は「まちへ拡がる」をテーマに「かないわ楽座」や東京理科大学によるまち調査などを実施しました。五年目の節目となる今年度はこのテーマを発展させる「活動をつなぐ」です。これまで金沢21世紀美術館が金石地区で実施してきた活動を、地域のみなさんにつないでいくことを目指します。美術館の事業としては今年度が最終年となり、金石スタジオの賃貸契約についても九月末をもって終了します。東京理科大学伊藤研究室とともに都市計画の視点から今後の展開についてディスカッションを行ったり、自主的な活動の芽を育てるようなミーティングを行っていきます。ぜひ皆さんご参加ください。

## AIR

アーティスト・イン・レジデンス

### 東京理科大学 伊藤香織研究室

5月〜8月滞在予定  
第1回ディスカッション  
【実施レポート】

五月二十九日(日)にトーク&ディスカッション「マチとハコとコトを考えるスタジオが街にもたらすもの」を行いました。前半は金石スタジオの活動を金沢21世紀美術館シニア・キュレーターの中田が紹介しました。一般的にはアーティストの滞在は作品の制作や発表が前提になりますが、金石ではゴールを定めずに街をみて、面白いところがあれば活かしてもらおう形でした。その結果、スタジオを飛び出して海や街に活動や作品が生まれました。パブリック・プログラムでは物だけでなくてやり

方を共有したり、新しい体験が生まれました。

共通するのは、きっかけを作ることです。アーティストが入ること生まれる「ざわつき」や、それを面白がる人

同士の交流、世代間の交流により化学変化がおき、金石で新しいことが起こることを期待していました。

参加者の皆さんからは「金石出身ではなく引越してきて

たが皆さんと交流して住みやすい所だと思った。人が集ま

り子どもの笑顔がある駄菓子屋は楽しいし、遠慮していた大人も来てよかったと言ってくれた」「家や職場ではない場所

でも年上の世代の方など手芸を通じた活動をしていった。そういった場所が金石の中にできたことが、暮らしがちょっと明るくなった」といったお話を伺えました。

後半は東京理科大学の伊藤香織先生にまちの「拠点」とは？という導入から、国内外のユニークな事例を紹介していただきました。驚くような取り組みに質問も多く上がりました。

金石での活動を振り返りそれぞれの体験を他の人と共有すること、事例紹介からこれからの金石に活かせる視点を見つけることが今回の狙いでしたが、実は終了後の立ち話

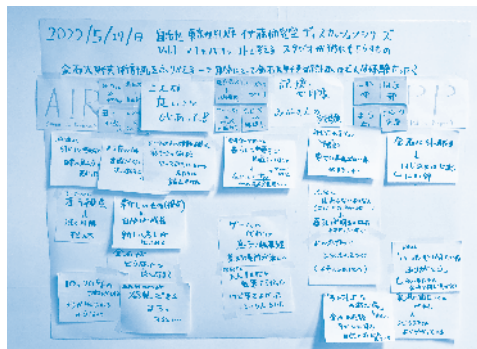
が盛り上がっていました。その中には、「金石スタジオで今後やりたいことがあって」という展望の話も。この流れから第二回では皆さんの「金石の展望」を共有する時間を設けようと考えています。(森絵里花、金沢21世紀美術館プログラム・コーディネーター)



## 「ゲストコメント」

### 伊藤香織(東京理科大学)

今回は、金石スタジオで得られた糧を次のまちづくりを活かすイメージを広げるために、国内外の「まちの拠点」と「まちとアート」の事例を紹介しました。たとえば、個人で始めて多国籍な人々の知り所となったドイツ・ライプツィヒの「日本の家」や、種々の創造拠点をまちに点在させて面的に広げていく大阪の北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想。さらに、地域の産業にも着想を得て住民たちの心に灯をともした英国・ゲイツヘッドの巨大彫刻エンジェル・オブ・ザ・ノースや、「巨人」の織り成す物語でまちの記憶や意味を強化するフランス・ルアブルのロワイ



ヤル・ド・リュクス公演。

デイスカッションでは、金石の住民に共有されているお祭りを核に新たな活動を取り入れていくアイデアや、手芸部のような個人に立脚した活動とまちの接点を見出した経験などが語られました。歴史やアイデンティティのようなまちの文脈と、個々の住民やアーティストなどが軽やかに吹き込む新たな創造性。これからの金石にはどちらも大切だと感じました。

※デイスカッションの様子は自治区ラジオにもアップ予定です。

★第2回デイスカッション

「データから見る『金石らしさ』とこれからの可能性」

7月24日(土)13時〜15時

場所：金石スタジオ

参加費：無料

定員：25名程度(当日受付)

【ゲストコメント】

高柳誠也(東京理科大学)

第二回は東京理科大学伊藤研究室が金石で取り組んできた研究調査や金石を対象とした地域分析の結果と、国内のまちづくりの潮流について紹介したうえで、皆さんと金石のこれからについて一緒に考えていきたいと思います。

昨年度実施した金沢21世紀美術館との共同研究「あなた

のまちの使い方・小学生時代と今」では、多くの皆様にご協力いただきました。金石のまちの変化と住民のみなさんの記憶や印象に残る場所についての分析から、改めて金石という地域の特徴と、皆さんの思いや記憶が重なっていることを実感しました。研究結果や第一回の議論を踏まえ、今回は金石についての客観的なデータ分析の結果を紹介し、金石のポテンシャルや今後の可能性について意見交換ができればと考えています。

まちづくりに関して、地域の「らしさ」を考えることは、とても難しいものです。突然、「自分らしさは何ですか?」と聞かれたとしたら、すぐに答えられますか? 仕事のことや出身地、趣味、家族のことなど、ついつい「自己紹介」になってしまつことが多いのではないのでしょうか。そんな時、身近な友人から自分の特徴や意外な一面を聞いてみると、時として「自分はこのように見えているのか!」と新しい発見につながる時もあります。まちの「らしさ」も同じようなことがいえるかと

思っており、今回はそんな新しい発見につながるきっかけになればと思っています。

歴史が重層し、文化も根付く金石は、「これからも変わらぬもの」を維持していくだけではなく、「変わってきただけ」や「これから変わっていくもの」が混在し、今後に変化していくことが予想されます。金石の将来を構想しながら、これからさらに魅力的で住みよい地域にしていくためには? という視点で一緒に考えてみませんか? 関心のある方のご参加お待ちしております。

第3回は8月28日(土)午後予定

※新型コロナウイルス感染拡大の状況等により、予定を変更する場合があります。詳細は美術館ホームページをご覧ください。



PP

パブリック・プログラム

かないわピクニッククラブ

まち中でピクニックをしよう!

「ピクニックは社交である。形式張らない出会いの場と心得るべし」。これは、東京理科大学 伊藤香織先生が活動されている東京ピクニッククラブが唱えているピクニックの心得です。他にも「統一性を求めてはならない。思い思いに場を共有する緩い集まりであるべきである。」「道具にこだわらな持つべし、ピクニックは生活様式の表出である。」「など、全部で十五の心得があります。

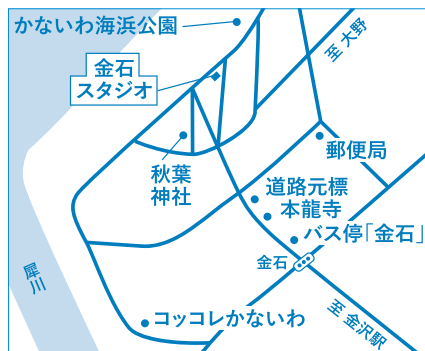
このような出会いの場がまち中であつたらいいと思いませんか。今回は金石大野エリアを中心に活動するかないわピクニッククラブを立ち上げます! まち歩きしながら、自分たちでピクニックスポットを探し、そこに集う方々と交流できたかと考えています。まち中で見かけたならお気軽にご参加ください! (河合紗那、金沢21世紀美術館 地域コーディネーター)

★かないわピクニッククラブ説明会  
7月17日(土)14時〜15時  
場所：金石スタジオ  
※初回のみ説明会を行います。その後の活動は自治区SNSで案内します。

金石スタジオ

金石松前町1番16号

バス停「金石」から歩いて5分、海岸通り沿いです。公共交通機関や徒歩、自転車などをご利用ください。スタッフ常駐は、毎週土曜の14時〜17時です。



金石スタジオ  
情報発信中



Instagram



facebook



自治区が配信する  
WEBラジオ

